

人を動かす「理由」をデザインする

特定非営利活動法人地域環境デザイン研究所 ecotone

太田航平さん

地域と連携で大事にするのは、細かな対応をすることですね。しっかりとキーパーソンとコミュニケーションをとることも忘れずに！（太田さん）



特定非営利活動法人地域環境デザイン研究所 ecotone(エコトーン)の事業の1つに、「リユース」をテーマとした仕組みづくりがあります。「脱・使い捨て」をキーワードに掲げ、お祭りやイベントなどで使用される「使い捨て食器」に代わり、何度も洗って繰り返し使用出来る「リユース食器」を活用した環境対策支援を行う活動や、まちなかのコンビニエンスストアに、マイボトルなどリユース容器を持っていけば飲料の中身だけ買えるシステムづくりを全国初で行うなど、その他にも次々に新たな取組をされています。今回は、各学区との連携について伺ってきました。

■ 取り組やすいテーマだからこそ、難しさもある

各区が主催するふれあい祭りや地蔵盆など地域のお祭りやイベントに向けて、リユース食器の導入を行って頂いています。その多くは当団体からのレンタルになりますが、独自に保有を希望され、細かな催しでも使い捨て容器でなくリユース食器を導入していきたいと強い意気込みをお持ちの学区さんには食器の販売を実施しています。早いところで平成19年頃から先行して実施され、10～20万円分を購入されています。ただ、実際は「食器だけあればどうにかなる」ではないため、とても難しいんです。「食器を返してくれない」「大量の食器は誰が洗う」。様々なネガティブな反応も考えられるため、事前の理解が重要です。北区の大宮学区では、平成18年に京都市ごみ減量推進会議の助成金で、地域イベントでリユース食器の導入を実施しました。しかし、最初は食器の返却・洗浄や保管等に課題が生じたため、浸透するまでに様々な工夫が必要となりました。



■北区の大宮学区との出会いは？

学区の方からのお問い合わせがきっかけでした。極力、私達からお願いをするというよりは、課題を何とか解決したい！と改善意識をお持ちの方からの相談の方が、長くおつきあい出来るパターンが多いですね。



■地域と連携して行うときに気をつけられていることは？

手が掛かるけれど、細かな対応をすることを心がけています。イベントは1つ1つ種類が異なりますし、担当する人達が増えれば増えるほど問い合わせも増える。ただ、しっかりとキーパーソンとなる人とコミュニケーションをとり、団体や組織内での理解を広げていってもらうことが連携の鍵なので、時間をかけています。

■事業費はどうやって捻出していますか？

費用として頂くのは、リユース食器代のみで、相談料などについては頂いていません。自治会の皆さんは、自治会費から出して頂くことが多いことと、わかりやすい取組なので助成金の申請などもされています。例えば、京都市ごみ減量推進会議からの補助など、実施しやすい環境が作られています。

■最後に、今後、連携を考えている NPO へのメッセージをお願いします。

地域との連携の始まりは、地域の方々の気付きからスタートすることが多いです。その地域の中にある「動きたい人」の話聞き、動きやすい環境をデザインしていく必要があります。私たちが掲げているのは、「理由のデザイン」です。判断の基準は善悪ではなく、損得勘定の方が多いですね。善だけ損する。善の部分には共感しても、それを得する仕組みにしないと実際の行動にはなかなかつながりません。地域の方々に動いて頂きやすい理由をデザインしていくことが次につながります。

このことを意識しながら、地域の方とのコミュニケーションを取り、その地域のことを知っていくというのが、まず最初に必要ですね。

また、地域との連携事業をきっかけに、多くのつながりや取組が増えていくことも多いです。その地域の課題は、もしかすると別の地域でも起こっているかもしれないし、その取組を知って、問い合わせをしてくれる人が出てくるかもしれません。そういった、いい連鎖が生まれるよう、取り組んでみてください。